Vol. 26　2022.9.30

高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

三重創生ファンタジスタオリジナル授業 前期集中講義「医療・健康・福祉実践」 尾鷲・熊野地域へ行ってきました

三重大学と鈴鹿医療科学大学の学生6名が参加した、三重大学前期集中講義「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」が無事に終了しました。8月20日（土）、21日（日）本講義②フィールドワーク、 8月27日（土）本講義③についてご報告します。

〇8月20日（土）
10:00～　尾鷲市須賀利地区　漁村集落見学
（拠点：東紀州サテライト　天満荘）
14:00～　フィールドワーク
案内人 谷口智行先生（紀南医師会会長、俳人）

〇8月21日（日）
10:00～　フィールドワーク
案内人 森本真之助先生（紀宝町立相野谷診療所院長）

フィールドワークでは、東紀州サテライト「天満荘」を拠点にして、須賀利地区、熊野地域をまわりました。
須賀利地区の避難経路を歩く学生の姿。地震発生後5分で津波が到達するという予想で、20代でも大変な傾斜の階段と狭隘な経路を歩きます（写真１）。
午後から谷口先生による「熊野概論」がはじまりました。七里ヶ浜（防潮琳、防潮提他）、鬼ヶ城他を周遊し、熊野の自然、風土、歴史、民俗、地理などを教わったことに加え、それらを踏まえたうえで、地域学を学んでいくことの重要性を学びました（写真２）。
森本先生から、へき地医療の概念について説明が行われた後、特別養護老人ホームを見学しました（写真３）。

写真１（左）：
尾鷲市須賀利地域を散策する様子。急こう配の津波避難経路を歩く学生たち。津波襲来時に災害時要配慮者（高齢者、障がい者他）は避難できないのでは、と気づかされます。地域コミュニティが結束し、いのちを守るには？避難するにはどうすればよいのか？ソフト防災について再考しました。

写真２（下）：
美しい七里ヶ浜を谷口先生と一緒に歩く様子。コロナ禍で旅行ができなかった学生にとって楽しくて仕方ない、そのような雰囲気が伝わり、担当教員にとっても至福のひと時だったようです。

写真３（左）：
森本先生より、自然の中で五感を磨く事の大切さ、へき地の高齢化の厳しい実態を知る機会をいただきました。

移動中、休憩中と時間を見つけては学生一人ひとりに的確なアドバイスをしていただきました。学生たちはもちろん、担当教員も感動でいっぱいの様子。

〇 8月27日（土）
会場：三重大学医学部病態医科学研究棟2階応接室

13:00～「志摩市の救急について」
（志摩市消防本部　西尾氏）
14:00～「津市子ども救命教育プロジェク
-医療と行政の連携について-」
（津市消防本部　富田氏）
15:15～　三重県の救急医療 &ふりかえり
今井寛先生（三重大学医学部附属病院救命救急センター・センター長/教授）

志摩市消防本部　西尾氏からは、市内の一日あたりの搬送件数や離島の救急状況、消防署の適正配置と市民との合意形成の課題等についてお話いただきました。
津市消防本部　富田氏からは、医師としての行政との連携の取り方、人から信頼される人間になるために必要な姿勢について、教育委員会、附属病院、消防等の多職種連携による救命教育プロジェクト（小学生高学年対象）について紹介がありました。
今井先生からは、これまでの多くのご経験から、三重県の救急医療はもちろんのこと、毎日を一生懸命生きること、命を大切にすること、時間を大切にすることなど、様々なことを教えていただきました。

学生の声
（三重大学人文学部4年）：二日間のフィールドワークに参加し、過疎地域の防災対策や医療の実態を知ることができました。改善しなければいけない避難経路もあれば、しっかりしている防潮林、防潮堤も立てられました。また、新型コロナウイルス感染症が高齢化地域に与える影響も知ることができました。先生たちのお話の中では無力感も感じましたが、諦めずに困難を乗り越えて、信じている道を歩んでいる姿を尊敬しています。
（三重大学医学部医学科1年）：今井先生のお話では、生きる上で大切なことをたくさん教えていただきました。毎日を一生懸命生きること、命を大切にすること、時間を大切にすること、など、たくさん経験を積まれてきた先生から教えていただくことで、より重みを増して心に刻まれました。私も私なりの使命を見つけて、限りある命のなかで何か社会に貢献できたらいいなと思います。
【参照URL】
https://conso-mie.jp/2022/09/06/0827iryou_kenkou_fukushi/

Vol. 26　2022.9.30

高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

東紀州の特産品である柑橘を使い、新商品を開発する取組がスタートしました！

三重大学では、平成28年度に三重大学東紀州サテライトを設置し、へき地教育に対する人材育成や教材開発、地場産業である柑橘農業、水産業、林業の活性化等に寄与する諸活動を推進しています。

令和4年度においては三重大学学生による東紀州地域の特産品（柑橘：かきうち農園）調査、多気VISONにおけるマーケティング調査を行うとともに、学生、生産者、地元企業等による新商品開発に向けたワークショップを開催し、新商品を提案することとしています。更に、三重大学生物資源学部附帯施設農場等の設備を活用し新商品の試作を行い、多気VISONでのテイスティング調査を経て、商品化に繋げようとするものです。夏季商品開発：2022年8月～10月、秋季商品開発：2022年10月～2023年1月の2回に分けて実施予定です。

担当者は東紀州サテライト産学官連携アドバイザー山本浩和氏、生物資源学部技術専門員吉田智晴氏と学生7名（人文学部、教育学部）です。

多気VISONにおけるマーケティング調査を実施しました。

第1回8月28日（日）

10:45～11:15　ミーティング
11:15～13:45　マーケティング調査・昼食
＊多気VISON担当者から説明
＊散策しながらマーケティング調査・昼食
14:00～15:00　果汁テースティング調査
15:00～15:30　ミーティング
＊果汁試飲・アンケート調査
＊多気VISON担当者と意見交換

かきうち農園の果汁を試飲した方でアンケート調査に回答したのは女性、20代が最も多く、県外からの来訪が9割を占めていました（写真４）。

写真４：
「誰に対して」「どのような価値を」「どのくらいの対価で」「どのように」提供するかを調査するため、来訪者53名にヒアリングする様子。

好みは①温州ミカン果汁31人②甘夏果汁18人③両方4人で、あったらいいなと思う加工商品には、「ゼリー」、「アイス」、「ケーキ（タルト、チーズケーキ）」、「料理に使えるソース」等を挙げていました。

これらの結果に基づいて、学生は自身のアイデアをブラッシュアップし、次回9月30日（金）のワークショップに臨みます。

三重創生ファンタジスタオリジナル授業 後期集中講義「食と観光実践」開講します

9月から12月にかけて土日を利用して行われる、県内高等教育機関合同開講授業 「食と観光実践」が始まります。今年度は、三重短期大学、皇學館大学、四日市大学、鈴鹿大学、三重大学の学生が参加します(留学生含む)。

南伊勢町、度会町、玉城町をフィールドとして、「食と観光」の“体験”を切り口に、地域課題の発見とその解決方法をグループワークなどを通じて学んでいきます。

テーマは「３町（南伊勢町、度会町、玉城町）での食と観光にまつわる体験プログラムを！-サニーロードを軸としてつないだ体験・学びの旅の提案-」です。今年度より、企画段階から伊勢志摩観光コンベンション機構にご協力いただいています。

第1回は10月2日（日）13：00～三重県総合博物館にて開講予定です。三重県総合博物館の太田学芸員、NPO法人アスミエるラボの皆さんも一緒に、館内見学、グループワークを実施します。

※今後の新型コロナウィルス感染症の動向によっては、オンライン形式で進めていきます。

第19回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの分科会にて事業報告を行います

10月15日(土)・16日(日)に東京都八王子市の東京たま未来メッセで開催される全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの2日目の分科会にて、「高等教育でのダイバーシティ推進」と題し、高等教育コンソーシアムみえ 田中 貢地域活性化コーディネーター、四日市大学 小林 慶太郎先生、ユマニテク短期大学 田村 禎章先生の3名で、コンソーシアムみえとして令和元年度から3年間にわたり行ってきた三重県からの委託事業「ダイバーシティ推進事業」についての報告を行います。

イベントの詳細は以下のURLからご覧いただけます。
【URL】
https://www.consortium.or.jp/special/zenkokuconso/

発行元：高等教育コンソーシアムみえ　事務局
連絡先：059-231-9969

三重創生ファンタジスタ 文部科学省 地(知)の拠点

下記の機関で三重創生ファンタジスタの養成をしています。

三重大学、四日市大学、皇學館大学、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、鈴鹿医療科学大学、三重県立看護大学、四日市看護医療大学、三重短期大学、高田短期大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校、三重県